文化財コーナー

昔のお葬式（一）

No.381

民俗学の一つに歴史民俗学というジャンルがあります。これは、伝承に加え、史料すなわち古文書も同時に取り扱うことにより、さまざまな年中行事・人生儀礼を多角的に見ようという考えです。

こうした歴史民俗学を用いて昔のお葬式の事例を見てみましょう。紹介するのは市内下太田の篠崎家に伝わる慶応二年（一八六六）に他界した広宣院（こうせんいん）という方の「葬式録」です。まず記録をみてみましょう。

（表紙）

「慶応二年丙寅六月十五日

広宣院葬式録」

葬式

輿笈　白絹ゆたん

天蓋

香炉笈　萌黄おどし

位牌袋　紫縮緬

御引導　万光寺住　體玄院

歎読　長尾村大東寺　文会

開棺　小林　蓮成寺

焼香次第

體玄院始として御出家方順々

幸左衛門

乭四郎

惣左衛門

政平

太吉

徳介

奥右衛門

源左衛門

弥一右衛門

隆平

多乭蔵

右之面々棺前にて焼香、此外供之面々経営之、

供之次第

五本幟　講中持

位牌　幸左衛門

杖　乭四郎

香炉　徳介

香合　奥右衛門

白無垢　源左衛門

茶湯　弥左衛門

手向水　隆平

挑灯　与作

輿抱　多乭蔵

挑灯　政平

輿跡押へ　太吉

霊膳　おたか

昼飯　おみよ

団子　およそ

此外女中供

施物

昔は土葬ですから、棺を輿（こし）で運びます。導師は下太田村内の、万光院の體玄院（たいげんいん）が務め、死者を偲び回向（えこう）する歎読には近隣の長尾村の大東寺、棺開の時にはやはり近隣である小林村の蓮成寺が担当します。以下棺の前で僧侶に続いて幸左衛門以下十一名が焼香しますが、これらは親戚であると思われます。なぜならばその後の野辺送りには、この十一名が含まれており、これは親族が担当するものであるからです。これは、葬送儀礼の研究からも貴重な資料で、いわゆる、親戚・組寺の問題を考えるための糸口にもなると思います。併せて、現在のお葬式の方法を民俗調査で聞いて比べてみると面白いでしょう。

茂原市文化財審議会委員　菅根　幸裕

問合せ
生涯学習課（9階）
☎(20)1559　FAX(20)1607

文芸コーナー

清らかな時

中山　省吾

東の空が鮮やかに色づいて
闇に支配された時間が解き放たれようとしている。
緩やかに満ちてくる光の粒子。
朝の静寂は東の間の安らぎを与えてくれる。
少しずつ溢れてくる清らかなものだけを
掌で掬（すく）い、そっと呑みこみながら
殺伐とした暮らしの中に
ひとときだけの夢を見る。

出口の見えないコロナ禍をはじめ
物価高、平和をおびやかす戦争、
地球温暖化による環境破壊など
息もできないくらい生きづらい世の中だ。
そんな時代だからこそ
気持ちにゆとりが持てる時間、
心のオアシスが必要なのだ。

ピピッ、ピピッ、ピピピピピピーッ。
鳴り響く目覚まし時計の音と共に
現実に引き戻される。
また慌ただしい日常が始まろうとしている。

◎選評　斎藤正敏

一日の始まりである朝の気配を描いた作品ですが、祈りの姿勢のある好ましい作品です。

●偶数月は「俳句・短歌・川柳」を、奇数月は「詩」を掲載しています。
●投稿は楷書でお願いします。作品・氏名にふりがなをふってください。
※詩の原稿送付先（直接選者）へ　〒297-0032　茂原市東茂原7番地　斎藤正敏宛。
詩は随時募集しており、どなたでも応募可能です。たくさんのご応募お待ちしています。
「広報もばらの詩」と朱書きしてください。原稿は30行以内でお願いします。